

令和7年度使用

中学校用教科用図書研究資料

数 学

北部採択地区協議会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 数学科の目標を達成するために、ヒントと解答のある「クイックチェック」を通して、より短いスパンで学んだことを確認することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、算数と数学の学びをつないだり、日常生活や社会の事象に関わる問題を発見・解決したりすることで、生徒の主体的な学びを促すような構成・配列の工夫が見られる。
4 大日本	(1) 数学科の目標を達成するために、練習問題を補充する「プラス・ワン」等で、練習だけでなく、確かめやふり返りも行うことで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、話し合い活動を通して見いだしたことから、その後の例題や練習問題の解決につなげていく学習過程が、各節ごとに丁寧に示されるなどの構成・配列の工夫が見られる。
11 学図	(1) 数学科の目標を達成するために、授業や家庭学習で活用できる「計算力を高めよう」を通して、多くの問題にチャレンジすることで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、「章・節のとびら」を設定し、身のまわりの生活や数学の学習の中から、生徒が自ら問題を発見し、考えることができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。
17 教出	(1) 数学科の目標を達成するために、基礎・基本を確認できる「学習のまとめ」から活用問題の「章の問題」へと段階的に取り組むことで学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、小中や各学年の滑らかな接続に配慮し、章を学習する前に既習事項をふり返ったり、学び直しをしたりする問題を設定するなどの構成・配列の工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 数学科の目標を達成するために、基本・応用問題に加え、学習したことを自分の言葉でまとめるふり返りの場面を設定することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、節の始めの「学習のとびら」では、数学を学ぶ意義と有用性を実感し、話し合い活動を通して解決の見通しをもつことができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。
104 数研	(1) 数学科の目標を達成するために、練習問題や「学んだことを活用しよう」等のデジタルコンテンツを各単元で豊富に活用することによって、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、各章に「ふりかえり」を設定し、学び直しを行うとともに、巻末の既習事項をまとめたページで前学年とのつながりを確認できるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 数学科の目標を達成するために、各自で取り組める多様な問題が章末に用意され、基本から発展まで習熟度に応じて取り組めるなどの、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、既習事項である基礎的・基本的な内容を必要な場面で確かめることができる「確かめ」で、生徒のつまづきを未然に防ぐようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「深い学びのページ」では課題解決の流れをページ枠に示し、個人で思考した後、次ページで話し合い活動などを行い学習内容を深めることができる構成にすることで、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、学習の土台となる内容をまとめた「学びのベース」を巻末に設定することで、前学年までの学習内容をふり返ったり、小中学校の学びのつながりを確認したりすることができるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、各章末に「活用の問題」を設定し、身に付けた知識・技能を活用して社会の事象に関わる問題を解決する過程で、自ら考え表現する力を高める問題に取り組めるようにするなどの工夫が見られる。</p>
4 大日本	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、各章の「利用」の課題では、思考の段階に対応させて問題発見・問題解決の流れをページの端に示し、仲間と協力して問題解決に取り組んだり、解決の過程を振り返ったりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、学習内容を振り返るとともに、学習を広げたり活用したりする問題「学びにプラス」を設けることで、数学のよさを実感し、主体的に問題に取り組んだり、学びを深めたりすることができるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、学習内容をもとにして考えが正しいかどうかを判断する問い「判断しよう」や、数学のことはや図などを使ってまわりの人に共通点やちがいを伝え合う問い「伝えよう」を設定するなどの工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、節の導入で身近な題材から疑問を見つけ、「Q」では話し合い活動から目標を立て、「数学的活動のページ」では、問題を発見し答えに至るまでの過程を丁寧に示すなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、「例」の中にノート形式で、模範的な解答の書き方を示し、解答のポイントになる部分を吹き出して補足することにより、ノート整理の基礎・基本を身に付けることができるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「説明する力をつけよう」では、なぜそうなるのか、相手にわかりやすく表現する力を身に付けるとともに、巻末では、レポートの作成方法や発表のしかたを具体的に示すなどの工夫が見られる。</p>

17 教 出	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「?(疑問)」から、「!(わかったこと)」を見だし「!?(新たな疑問)」へつなげる数学的活動のサイクルを位置づけ、一人一人の生徒が問いをもって学び合えるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「知識及び技能」を習得できるように「例」と「問」の間に「たしかめ」の問題を配置することで、学習した内容を繰り返し確認するとともに、スモールステップで練習できるようにするなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「学びのプロセス」で、思考の流れを具体的に示し、自分で考える過程や他者に考えを伝える過程を通して、学習内容をさらに深めていく活動を数多く設けるなどの工夫が見られる。</p>
61 啓林館	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「学びをひろげるときに役立つ考え方」「解決するときの考え方」を示すことで、大切な考え方を自然に体得させ単元末にわかったことなどをまとめる場面を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、多種多様な「例」や「例題」を数多く配置し、直後にそれらを参照しながら解くことができる「問」を配置することで、生徒の学習内容の定着を促すなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「説明しよう」や「話しあおう」で、ことがらが成り立つ理由を説明したり、他者と自分の考えの違いを理解して正しい考えを伝えたりする活動を設けるなどの工夫が見られる。</p>
104 数 研	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「Q」や「TRY」の場面を中心に、生徒と先生のキャラクターの発言から課題を別の角度でとらえ、新たな疑問をもたせ、学習の内容の理解を深めようとするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、デジタルコンテンツ「Link補充」で、既習内容をふり返る問題や反復問題、さらには発展的な問題を豊富に設定することで、目的に応じて生徒自らが練習問題を選択できるようにするなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「方法の説明」や「理由の説明」で、生徒同士の会話の中から同じように考えたり、具体的な数で考えたりする活動を通して、伝え合う力が高まるようにする場面を豊富に設けるなどの工夫が見られる。</p>
116 日 文	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、問題解決型の「学び合おう」では、対話を通じて学び合う問題解決の過程を示し、巻末には「ふり返りシート」「対話シート」を用意し考える力や説明する力を高めるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるための二次元コード「身につける」では、練習問題が豊富に配置されており、生徒が何度でも繰り返し問題に取り組むことができるようにするなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、章末の「説明できるかな?」では、「大切な見方・考え方」で示されたことがらを活用し、方法や理由などを数学の用語を用いて説明する場面を設けるなどの工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、キャラクターの吹き出しに「同じように考えると」や「それなら」という文言をつけ、学びのつながりを自覚できるようにするとともに、より細かな単位で理解を確認する「クイックチェック」を設けることで、生徒自身がつまずきを早期に発見できるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、ウェブコンテンツを使って学習を深めることができる場面にマークをつけ、シミュレーションや動画、資料などのコンテンツを用意するとともに、付録に各学年のまとめを掲載し、使用時に教科書から切り取って冊子として持ち運ぶことができるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、各領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し、単元導入時にスムーズにその学年の学習に入っていけるようにするとともに、「さらなる数学へ」では、1年間の学びを生かして、日常生活や社会の様々な課題を考察したり解決したりできるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、各章の終わりに設定した「章の問題」を「たしかめよう」→「力をのばそう」→「学んだことを活用しよう」という構成にするとともに、デジタルコンテンツ「まなびリンク」で解決の手立てを示すなど、生徒の理解度に応じて学習を進めることができるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、単元内にある節の学習を進めれば解決できる身のまわりの問題を、すべての節の先頭に「学習のとびら」として設定するとともに、場面理解や話し合い活動、試行錯誤する活動をサポートするコンテンツなどを用意し、学習内容の理解を促すような工夫が見られる。
104 数 研	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、本文や例を丁寧に記述し要所で図解を用いることで、生徒自身で理解を深められるようにするとともに、教科書の内容を補充する動画や資料などの5種類のコンテンツを用意し、多様な生徒に合った学びができるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、デジタルコンテンツを使うと有効な場所に二次元コードを配置し、その上に分類を付記するとともに、生徒が苦手を克服できるように、まちがえやすい箇所に「誤答に注意！」を表示したり、「表現の例」として分かりやすい説明を具体的に示したりするような工夫が見られる。

4 地域課題への対応

〔観点4〕 これまでの学びや経験を生かすとともに、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるような工夫が見られたり、本地域の実態に配慮した工夫が見られたりしているか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) これまでの学びや経験を生かすことについては、節の導入や「深い学び」「活用の問題」で、日常生活や社会の事象に関わる問題を解決しながら、数学どうしのつながり、身のまわりや社会と数学とのつながりを実感できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力を身に付けさせるために、「基本の問題」「章の問題」だけでなく、巻末の「学びのベース」で、これから学ぶ内容の基になる性質や公式を確認したり、「補充の問題」を解いて1年の学びをふり返ったりできるような工夫が見られる。</p>
4 大日本	<p>(1) これまでの学びや経験を生かすことについては、「活用・探求」で、生徒自ら課題を作成して取り組む問題や、「社会にリンク」で、他教科と関連する内容や仕事の中の数学を紹介し、視野を広げて学習への興味・関心をもてるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力を身に付けさせるために、練習問題に「プラス・ワン」を追加してつまずきに対応し、巻末の「MATHFUL」で、数学の歴史や生活との関わりについて紹介し、楽しく豊かな数学を生涯学び続ける態度を培うような工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) これまでの学びや経験を生かすことについては、章のまとめの問題に「活用」を設定したり、「深めよう」では、学習した内容をさらに深めたりして、実践力を向上させるとともに、日常生活や環境に関する問題の解決に生かせるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力を身に付けさせるために、領域ごとに「ふりかえり」を設け、前学年までの関連する内容が復習でき、「章のまとめの問題」では、上位学年の内容にも触れ、小中高の内容のつながりを意識できるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) これまでの学びや経験を生かすことについては、導入課題「Let's Try」で、身近な題材から問いを見だし、数学的な見方・考え方を働かせ学び合いながら、数学のよさや楽しさが感じられるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力を身に付けさせるために、各種学力調査でつまずきが見られる内容について、誤答例などを示して、どこが間違っているかを考えさせる問題を設け、つまずきのポイントを丁寧に扱うような工夫が見られる。</p>
61 啓林館	<p>(1) これまでの学びや経験を生かすことについては、「ステップ方式」の利用問題で、解決の過程をふり返り、新たに発生した疑問をもっと調べてみたいと思ったことに進んで取り組む態度を育成するような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力を身に付けさせるために、単元末の「学びを身につけよう」で、多種多様な問題を解くことができ、巻末の「数学広場」で興味・関心や習熟度など個に応じて学ぶことができるような工夫が見られる。</p>

104 数 研	<p>(1) これまでの学びや経験を生かすことについては、日常生活にある数学的な見方・考え方を働かせてほしい内容を「Q」や「TRY」で扱い、対話を通して、具体的なものを例にあげて考えたり、すでに学んだことを使って考えたりできるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力を身に付けさせるために、各章の前の「ふりかえり」で、その単元を学習するうえで必要な既習事項について確認したり、巻末の「数学旅行」で、数学の楽しさや奥深さを感じたりすることができるような工夫が見られる。</p>
116 日 文	<p>(1) これまでの学びや経験を生かすことについては、各章の「学びに向かう力を育てよう」「学び合おう」で、考える力や説明する力を高める内容を扱い、巻末の「ふり返しシート」「対話シート」を用いて問題解決型学習ができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力を身に付けさせるために、章末の「章の問題」で、基礎・基本から標準的な問題を解くことができ、巻末の「数学マイトライ」で、「補充問題」や「活用の問題」など、多彩な問題に取り組めるような工夫が見られる。</p>